

アスパラガスのヤケヤスデ（新寄主）

令和4年4月下旬に、オホーツク地方のビニールハウスにおいて、萌芽直後のアスパラガス若茎に地下部から地上部にわたる数ミリ幅の連続した食痕が認められた。また、一部の若茎は食痕部を内側に湾曲する症状も確認された。被害は地下部にも見られたことから、当該ほ場において被害株付近の土中を調査したところ、多数のヤスデ類の幼虫が観察された。これらの個体を採集し、アスパラガスの新鮮な若茎を与えたところ、切断面に多数の個体が集合し、摂食した。これらのことから、食害は、このヤスデが若茎の地下部を摂食し、若茎の伸長とともにその食痕も拡大した結果生じたと考えられた。さらに8月上旬に被害発生ハウスにおいて調査を行ったところ、多数の成虫が採集された。採集個体は体長約2cmで、雄の生殖肢が3~5本に枝分かれする特徴を有することからヤケヤスデ *Oxidus gracilis* (Koch)と同定された。

本種は、一般に落ち葉や腐植質中の真菌類を摂食する。しかし、当該ハウスは籾殻が大量に施用されていたことから、これらを餌に本種の生息密度が高まり、なおかつ春先のハウス内が高温乾燥状態となったため、水分を求め若茎を食害したと推測された。

（北見農試）



アスパラガスのヤケヤスデ（上：被害を受けた若茎、下：食害するヤケヤスデ）

（北見農試 佐々木太陽 原図）